

授業概要

経済活動の結果生じる様々な経済現象や社会現象を解明するには、既存の理論や仮定・仮説に基づいて理論的に考察を進める「理論的アプローチ」と、対象とする経済現象・社会現象を特徴づける変数（金額、数量、人数、時間、指数、その他）の間に成り立つ統計学的関係等をデータ分析により導き出し、その結果を用いて、背後にある仕組み、経済学的意味を解明していく「実証的アプローチ」がある。また、実証的アプローチで分析に用いるデータには、官公庁による経済統計の他、企業や研究者等が行う調査統計データがある。これらのデータを分析するときに必要な統計学の理論を「計量経済学」というが、この授業では、計量経済学に近い内容で理論を講義しながら、経済統計学の基礎事項に触れる。特に、いくつかの事例においては、それぞれの経済統計を紹介しながらその分野の経済統計データを用いて理論の説明を行う。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション、統計調査と経済統計、経済統計学
第 2 回	記述統計学①（平均・分散・標準偏差、四分位）
第 3 回	記述統計学②（相関、単回帰分析、相関と因果関係）
第 4 回	確率と確率変数、確率分布
第 5 回	正規分布、中心極限定理
第 6 回	推測統計学①（区間推定）
第 7 回	推測統計学②（平均値の検定）
第 8 回	推測統計学③（分散の検定）
第 9 回	多重回帰分析
第 10 回	線形回帰分析の問題点 [所得と消費支出]
第 11 回	線形回帰分析の問題点への対処法
第 12 回	最尤法
第 13 回	非線形回帰分析（プロビットモデル・ロジットモデル）
第 14 回	時系列分析①（トレンド・循環変動・ノイズ）[宿泊統計]
第 15 回	時系列分析②（時系列相関）[物価上昇率と M_1]
第 16 回	定期試験

到達目標

記述統計学・推測統計学、線形回帰分析・非線形回帰分析、時系列分析について理解し、基本的な問題が解けるようになる。各種経済統計についての理解を深める。

履修上の注意

全学共通科目の「統計学Ⅰ」「数学（解析基礎）」を履修済みか履修中であることが望ましい。

予習・復習

予習：次回の講義内容の概略を書いたプリントを配布するので、そのプリントを予習しておくこと。

復習：予習用プリントと講義内容、自習用プリントで復習し内容の理解と定着を図る。

評価方法

第8回終了後のレポート（40点）と期末試験（60点）で評価する。

テキスト

特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。